



ケ 5
68
27





信玄全集末書上巻之五

- 一 信玄公法書陳前より十八ヶ條あり
- 二 法方之決書十七ヶ條あり
- 三 者取物奉り去切りさし、道より中、合六箇條ありし、用、又後あり
- 四 人救由立十二ヶ條あり
- 五 押右被撃振あり
- 六 螺乃事
- 七 鐘志事
- 八 旌旗乃事
- 九 合戦大小成を概攻し、旗振あり

信玄全集末書上巻之五

54

十才りるをわく乃其の事

十才りるをわく乃其の事
一 信玄全集末書上巻之五
一 信玄全集末書上巻之五
一 信玄全集末書上巻之五
一 信玄全集末書上巻之五
一 信玄全集末書上巻之五
一 信玄全集末書上巻之五
一 信玄全集末書上巻之五
一 信玄全集末書上巻之五
一 信玄全集末書上巻之五
一 信玄全集末書上巻之五

信玄全集末書上巻之五

一 信玄乙沖お陣前あり十八ヶ條の事

第一之國乃あひとりいづく内談の事

地形繪描しとく道程と考へ者改物な^{モノカニラフ}り

道為大さしと定られさるば敵しとく遊の

びふとのあり

大合戦と惣大将一心と以敵國自國乃為

とくいづく定らる

敵の傍より中しとく中守不り中隊場と

早見定い方へ取らきらす

信守敵國道筋十二箇うの大河小河大坂小

坂本立原山ありけりまゝなり大道狭なりけり切
可しく懐我あり勝利の道理なりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
自柄も陣ありなりなりなりなりなりなりなり
習兵之學必先繇下以及中繇中以
及上則漸而深矣不然則垂空言徒
記誦無足取也

第一敵の人救積る敵乃人救と稱す時あり
方と敵と對するなりなりなりなりなりなりなり
換わりたると信玄と相列小田原と七代一
和むとすなりなり陣取時と小田原の人救

と方方人救と考へ先伊豆駿河の境(御ま
お川)の邊に陣取陣取は小田原にひかれ陣
乃時信玄此いなりなりなりなりなりなりなり
つととととととととととととととととととと
城とて強豆場(加増)とむむむむむむむむむ
と引遠く小田原(攻)なりなりなりなりなりなり
又小田原(御ま)なりなりなりなりなりなりなり
よ人救なりなりなりなりなりなりなりなりなり
源氏の城と攻なりなりなりなりなりなりなり
方とわれなりなりなりなりなりなりなりなり
是捨く小田原(引)なりなりなりなりなりなり

信（發向）引（引）爲（爲）之（之）備（備）攻（攻）落（落）一（一）後（後）
府（府）一（一）押（押）之（之）引（引）孫（孫）子（子）曰（曰）秋（秋）人（人）而（而）我（我）無（無）秋（秋）
則（則）我（我）專（專）而（而）敵（敵）分（分）我（我）專（專）爲（爲）一（一）敵（敵）分（分）爲（爲）十（十）
是（是）以（以）十（十）攻（攻）其（其）一（一）也（也）則（則）我（我）衆（衆）敵（敵）寡（寡）能（能）以（以）
衆（衆）擊（擊）寡（寡）則（則）吾（吾）之（之）所（所）與（與）戰（戰）者（者）約（約）矣（矣）吾（吾）所（所）
與（與）戰（戰）之（之）地（地）不（不）可（可）知（知）不（不）可（可）知（知）則（則）敵（敵）所（所）備（備）
者（者）多（多）敵（敵）所（所）備（備）者（者）多（多）則（則）吾（吾）所（所）與（與）戰（戰）者（者）寡（寡）
矣（矣）故（故）備（備）前（前）則（則）後（後）寡（寡）備（備）後（後）則（則）前（前）寡（寡）備（備）左（左）
則（則）右（右）寡（寡）備（備）右（右）則（則）左（左）寡（寡）無（無）所（所）不（不）備（備）則（則）無（無）
所（所）不（不）寡（寡）寡（寡）者（者）備（備）人（人）者（者）也（也）衆（衆）者（者）使（使）人（人）備（備）
已（已）者（者）也（也）

以（以）方（方）境（境）同（同）人（人）救（救）後（後）同（同）後（後）人（人）救（救）後（後）士（士）
將（將）爲（爲）也（也）一（一）何（何）種（種）兵（兵）至（至）何（何）務（務）連（連）也（也）一（一）定（定）之（之）由（由）
自（自）救（救）の（の）他（他）法（法）以（以）定（定）之（之）

同（同）強（強）弱（弱）内（内）後（後）也（也）

強（強）敵（敵）と（と）弱（弱）を（を）内（内）外（外）に（に）分（分）つ（つ）る（る）言（言）

わ（わ）く（く）と（と）軍（軍）一（一）か（か）ち（ち）一（一）か（か）分（分）つ（つ）る（る）言（言）
大（大）お（お）一（一）心（心）乃（乃）強（強）計（計）一（一）わ（わ）く（く）の（の）他（他）法（法）の（の）よ（よ）き（き）以（以）剛（剛）
強（強）と（と）弱（弱）敵（敵）と（と）弱（弱）と（と）強（強）と（と）の（の）言（言）は（は）わ（わ）く（く）と（と）一（一）志（志）
か（か）つ（つ）け（け）ら（ら）る（る）方（方）ら（ら）の（の）軍（軍）の（の）他（他）法（法）を（を）表（表）す（す）的（的）
な（な）弱（弱）者（者）の（の）強（強）わ（わ）ら（ら）ず（ず）弱（弱）者（者）と（と）強（強）者（者）と（と）の（の）信（信）を（を）以（以）て（て）信（信）
不（不）信（信）の（の）信（信）を（を）以（以）て（て）信（信）を（を）以（以）て（て）信（信）を（を）以（以）て（て）信（信）を（を）以（以）て（て）信（信）
く（く）不（不）信（信）を（を）以（以）て（て）信（信）を（を）以（以）て（て）信（信）を（を）以（以）て（て）信（信）を（を）以（以）て（て）信（信）

此強弱は通る計知らるるも、殊に強弱法合と
 敵の思ふべし一也と云ふべし、而も思ふべし、
 強弱の法合と思ひ合ふべし、敵の思ふべし、
 合と思ひ合ふべし、而も思ふべし、
 此の敵の強弱法合と弱と云ふべし、
 第一之方、方と云ふべし、
 倭朝の同法と云ふべし、
 願書と云ふべし、
 信玄と云ふべし、
 也と云ふべし、
 成りて云ふべし、

小書と云ふべし、
 信玄と云ふべし、
 也と云ふべし、
 成りて云ふべし、
 第一之方、方と云ふべし、
 倭朝の同法と云ふべし、
 願書と云ふべし、
 信玄と云ふべし、
 也と云ふべし、
 成りて云ふべし、

第五段中法家申すは陳宛他法よく相定むる
陣在他法よく取しをわん人教不亂に配定り
しよく早しして者既相定りの苦勞あり陳宛
よくわられぬ軍よわめて必竟の事あり知を
下しく進しよく心定むるにふする

第六段中人教よく改方方の多く人教よく代器と
ふふと家整むるに心入ぬ三つの事

一人志願よくさうてせんし我國のさうがさ
ふを別よくしよくそは他國へ計策よく
よくきき事

二人よくせんし我一人の勝へきするよとよま

してそれよく重むるよは他國へ打まふする

二他國力大物又とをその下の士大将をれよくの
ねよくせんし我家老若既相定りよ不

審よくて吾國よく分別よく吾よく付よくは吾
よくは他國よくよくよく働ま入不危やうり

はよくきき事

第七段月同日よ同敵同言よくそく三夜よく合
我わわんききお夜肝要の事

第八段方の人教敵へ向やうよく勝よく大宛
七やうよく定らうり事

第九段士道他法よく案よく始者よく案板同法よく善く

削足適履にして其法を以て書て抄本の如くして
 うつらふとして洞計としてとらふ一は勸を
 して其を西勝方面に我をより上中下と定て
 以て法は故少も其秘中不背軍法者強其
 以の下の如く付た教諭と見ゆて道退句如石
 者土而性のと曰田家子其安無天籍也其
 多

第十敵堅固不堅固の場合或は城大小とくは
 知く攻括七重と云ふ事

第十一陣取の場合或は陣取七重
 一は定道具配の云々と云ふ定法は但小迫合

一は倭立の場合或は戦の場合或は倭立等あり定る
 括當の如く之を以て定る事あり

第十二上攻憲攻り家老長尾意を入道々如陣
 第一定る又今条を二敵方守兵糧等二
 敵方守強弱三敵國定るとり不強高し如四
 敵方守而性乃陣又敵ひのせゆとらへ作
 の考へ先大形也

第十三圍り根子と云葉なりくして多川計と云
 大指見分の早れ事



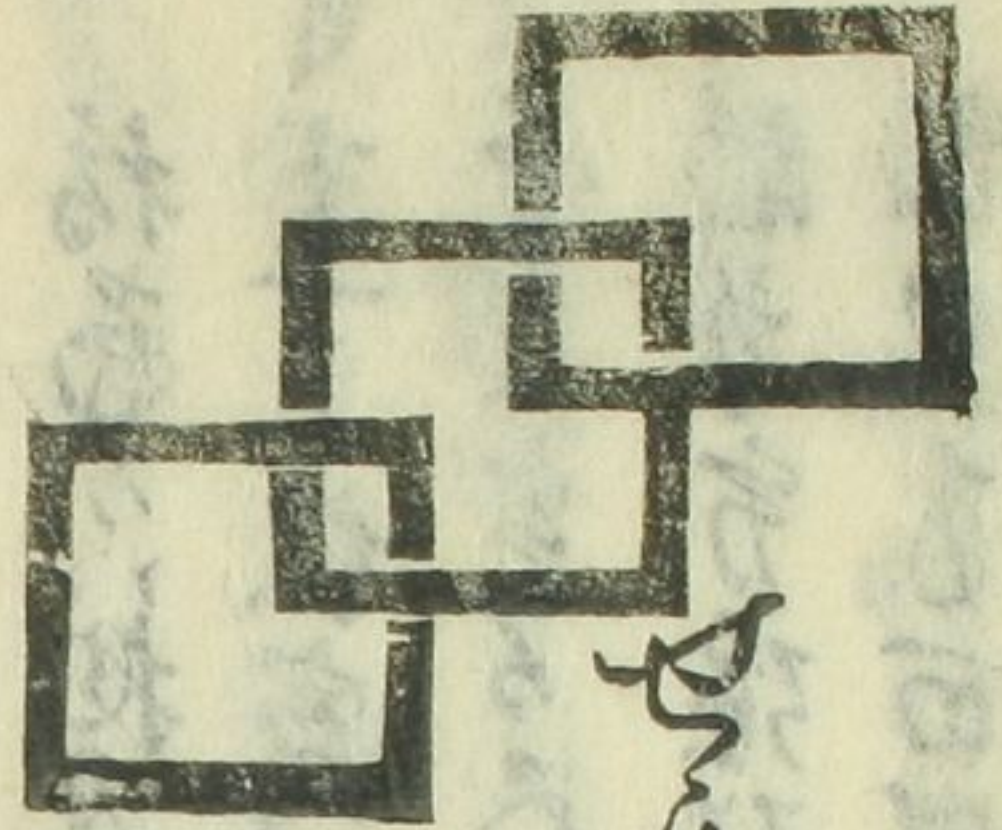
如珠



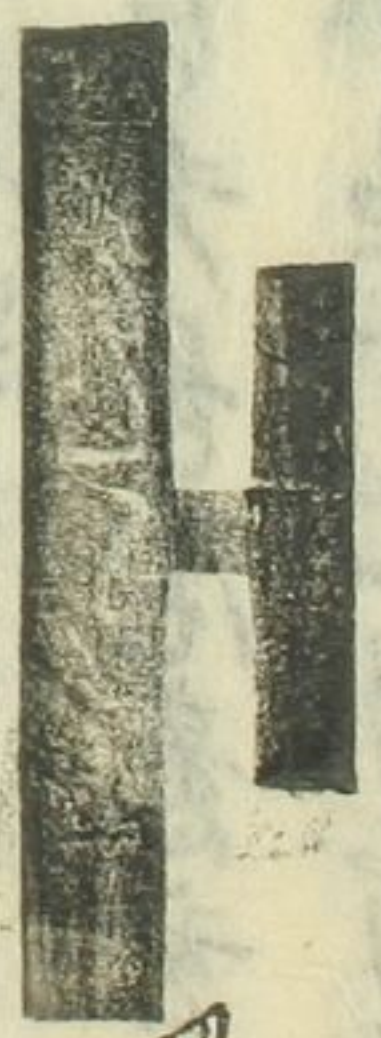
大道



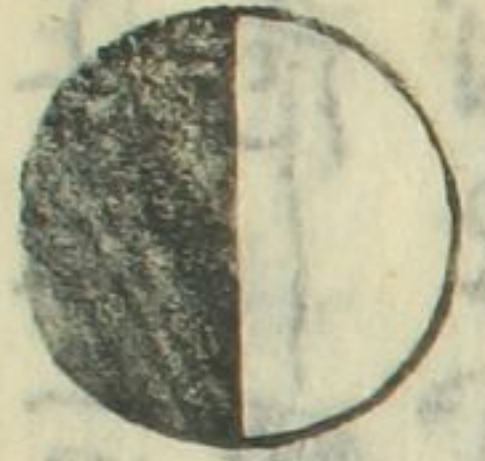
但るなるり



如所



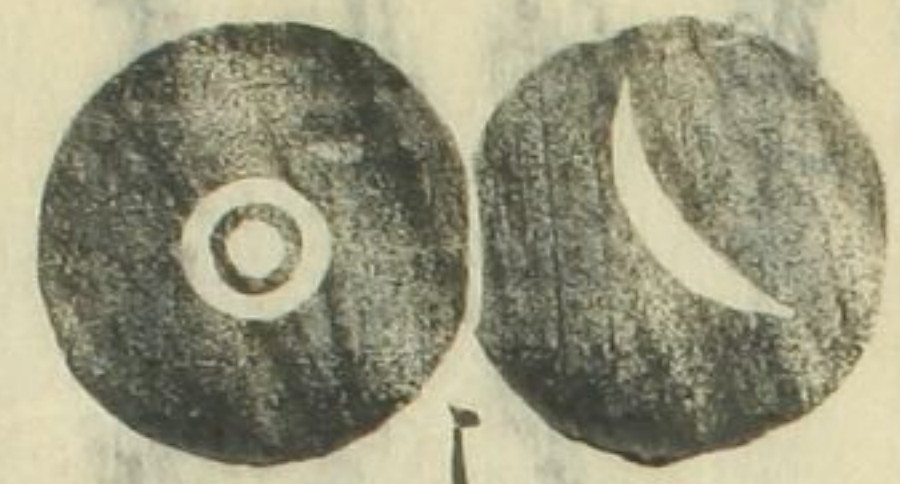
賜道は若た



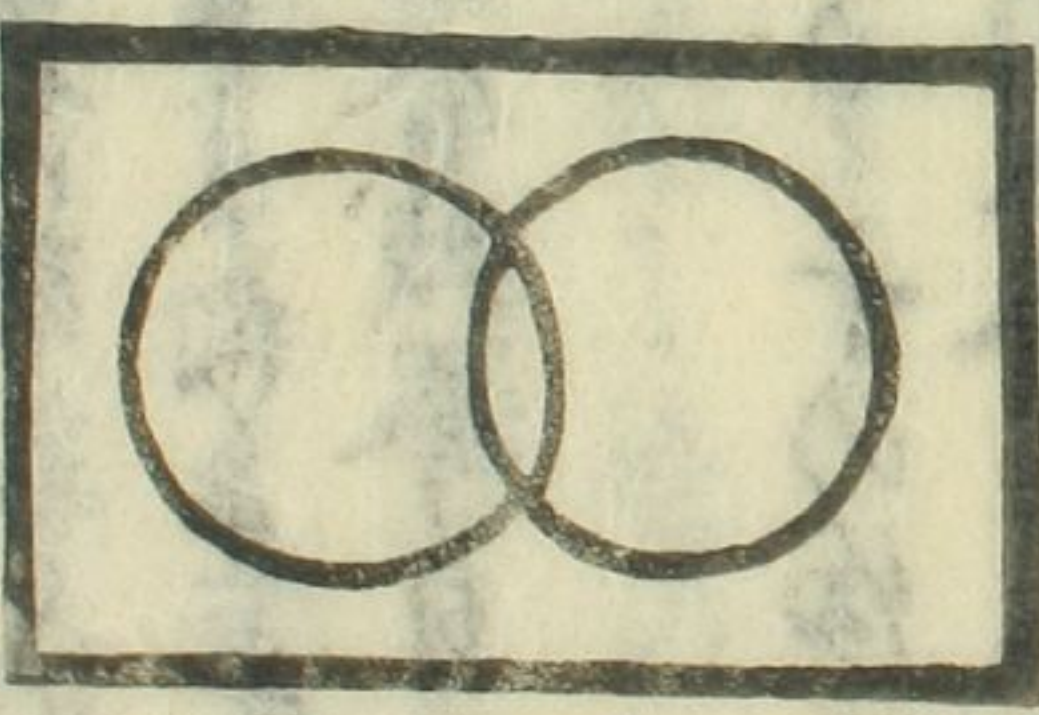
如舟陣取り付



古城恩地



如



遠列井ノ若
如どの一ノ若
入り里村定
星少

第十四合戦勝利の後追討するも大合戦の
上道二里内外小迫合し一町二町三町を
危し螺を敵の支声とす書を能く心成
付り大いささらされぬ敵とて追討のひかりの也
道る軍法の内れ書し相違なき松一守付
但阿しりり時日の合戦今日追討とす
るりわり

第十五追討と取定ける千の物一敵と討たる
又十ある百の危し小迫合し六十又二十以上
弱敵のわたりひらり一人して首二つ討
取事

第十六軍一賜ては下中守備早立す
あくとしは軍と物中守備敵追つて早
引入新とて物とて一城とて堅固の場と
刃を悔成さるる事

第十七法を云人へお守備一法のは松尾脇守
名を介とすなり物と松尾守とらるる事

第十八沖田守備法を云く可定事
○二法を云くは第十七條より

一守下知る先とて指懸定る二三或は脇守
了根し物見は敵とて敵可為曲り付
能く保くま者等とて不可改事

一、先自下指賊匪等名背軍法之人等事
 以下忠可成敗之事
 一三、父子細而地之備口相交軍多之志武具了
 尤可取之事若其自人而事其儀志甚以
 可為曲之想於用而志打除之可通之
 一四、人救押時不可致賜道旨意之樂可下付若
 想於通之者自人可為曲之
 一五、信之奉行之指為全遠背之可為曲之
 一六、為時便指遣人中旨少不可遠背之
 一七、人救押時小能決地之德決背之宜奉以相保之
 可押若權押者可為曲之

一八、指遣之軍役之為外間長柄指並物之
 樂信之之但長柄之外之指之可通之可為
 之丁事
 一九、於陣取馬取放儀可為曲事
 一十、小荷路押之之者可相觸情象軍將不相
 交格之樂可下付若權軍將相交者其者之
 可成敗之事
 一一、不知之男女軍可執捕若捕之陣在隱且
 之忠實之者自可改之自然自他相中之
 者缺之自人之知以之可成敗之可下付若
 他家之不知之先自之者不可成敗之

一^{十一} 諸商賈押買狼藉與と停止之若於遠宵
之族と即可敗事

一^{十二} 亡下知ると陣拂と可為曲事

一^{十三} 陣中振束と盤上之流勝負時裏目と云
禁割之支

一^{十四} 大酒被ふは之事付陣中出た去陣在しり

一人頼新おし外張可起之事

一^{十五} 陣中人逃云事少は停止止之り但陣中し
て以軍陣陣可落去事

一^{十六} 他陣望傳心之支

右十七箇條と信玄乃用らるるは及方の事

小田原陣

一^{十七} 家康公は御旗のしりあり

○三者頭物をり力武切とくふと一と通ち
可や合入ヶ糸付と別も用又使の事

一者攻物奉りの武切とくふと一と通ち
敵とくふとくふとくふと一と通ちの働を必を
用ふり若は成とそしりふたふてと若道心
の可為罪科事

一^{十八} 同心足指組と可為上らりる成しりり身志
働を仕とて若道心の科し可被作らる

二組及流士の徳と合せ流脇と名傳法のしり

穿鑿せしむるは其の罪類なるに
して定るはしとお背しはあてとて是は迷心固意
の可為罪科事

四 信をもて人夫の御技揚とてしりあつて忠節
忠切り心算とてあつて己が過言へしゆを軍
兵と背式と血海のあつていそいでとて
ものもあつていそいでいそいでいそいで
いそいでいそいでいそいでいそいでいそいで
信人といふれきつていそいでいそいで

五 陳揚事業といはるるのたあつて可有無き
六 或具るやふれ共具るたあつて陣具以下

即ち事とて表を理しとていそいでいそいで
はしき事

右之條とて益目といはるるは其の奉りしとて
信徳は信し可なり事なり

此の信ものありて信とて信勝利の物徳は
もつていそいで信とて信とて信とて信とて
の信とていそいで信とて信とて信とて信とて
いそいでいそいでいそいでいそいでいそいで
思ふとていそいでいそいでいそいでいそいで
相信揚とて信とて信とて信とて信とて信とて
信とて信とて信とて信とて信とて信とて

一 若くは二 大木と云ふ 三 大石と云ふ
四 龍と云ふ 五 稻と云ふ

此の御来乞の湯大御計しもわさくす者
既相言ひ法役者すべし有るしと云計
儀あり

○ 一人救出三十二ヶ条の事

以地利為據不能整號令戒行伍

一 大軍が旗小軍大旗あり

二 法儀の格相と必射のさく相あり

三 格相のさくと思ひしりの法身戒と家々
乃紋又の法神法社の御名を介ありと云

まろくししは

四 是れ士大将と二つて是教うと云
よ身方ゆとありとありあり

五 馬ありし是將大相とをさかちの最長柄
もり能なり大身をれは法役者大形も
ありしを相ありの事あり是れを相も自
身のさく相あり

六 能業もさく事

七 甲乃前立相と一家中をさりありは能業
を金の流大おとそ人の好法ありあり
る備英濃家中の銀乃圓志恩あり山縣

三海軍海軍と粟文の角折を或は五月
れ家中もわり或はくくこわりの或はか
ありく又とよわりのそ家中ノくよて
えちり

八刀脇指と三巻をよきる是は右能成
ちくめ大小上下たよめ也但金浪朱
のき黄赤の文を物りふくこの大小
を其力れよきは物り

九枚長柄巻と茶白拂あり是よて教
方給くるる

十桐書り事 惣得り桐云と物くくわ

合戦大小敵敵一時せめ或はうくわ
又つり勝負時上はく相意定らくる

十一小荷経儀の事

右より外は銃炮法甲冑衣具る具る力
糧下の儀とよるはよ及是と暗と但
し物とくくめ法は具ありくはる
最務るちりく言の事くくはる
不及是炮銃

十二高嶺弾正と英海小橋上総守赤海小田
典原忠海是は法文たよめは経儀
一とよと法海とか物お可被作すのる

け二家中の先右の... 信玄公二年は
存生しつゝおとくとも余の軍中も一矢く
しつゝおとくとも余の軍中も一矢く

○五押右鼓撃振の事

一孫子曰淵源如同寡秋名是也

金鼓曰名懸引鼓ひふ夜りる也右鼓の鼓
も七五三或と四二二或竟と五拍子次
根元ととも標り鼓も四二二又と七五三あり
二人鼓引揚りと家陣をり呼揚ととも五拍
右葉内りおりおりかよら葉の... 金
鼓旌旗の所要と云

夫金鼓旌旗者所以一人之耳目也人
既專一則勇者不得獨進怯者不得
獨退此用兵之法也ト云云

右鼓十一返之事

序 破急あり

一ニツけ序

二ニともむしりる三ツけなり

三ニ笛りる教ありしりひべー西早ー

四奮しつゝおとくとも余の軍中も一矢く

五折しつゝおとくとも余の軍中も一矢く

六立しつゝおとくとも余の軍中も一矢く

一 鼓之立とらぐの居とらぐの一ノ用と
 七 勝るは由まらぐ一ノ螺を鼓合とらぐ螺と三ツ
 右鼓と二ツ細と序
 八 相ひの右鼓五ツは螺ハ三ツ早吹
 九 守は右鼓とんく一ノ螺ハ三ツは
 あり
 十 鼓合ハ取寄一ノ細末大一ノ螺三ツは右鼓
 と細小考て鼓つもあり
 土海さりぐ一ノ引たよ大ふ末らク細ク
 螺と以人鼓と一ノ備押一ノり合戦終る

進しつゝ又人鼓と立ちて居る右鼓の勢と
 進退とを横へし鼓と斬筋とを叫ぶと一ノ吹
 とを王必定あり

靖曰庸將罕能知其節者也善戰者
 其勢陰其節短勢如曠弩節如發機
 臣修其術凡立隊相去各十步駐隊
 去前隊二十步每隔一隊立一戰隊
 前進以五十步為節角一聲諸隊皆
 散立不過十步之内至第四角聲罷
 鎗跪坐於是鼓之三呼三擊三十步
 至五十步以制敵之喪馬軍之從皆

出亦以五十步臨時節止前正後奇觀
敵如何再鼓之則前奇後正傷邀敵
來伺隙倚虛此六花大率皆然也

又押右鼓十一段のしり

一 伍押右鼓

二 ともむら右鼓天鼓わしを強はしそも
わすく時のしりなり

三 ともむら右鼓道わしき時を仰りてあつた
えゆしり海へ打傳りなり

四 敵と伍をよむ時の右鼓二のしりと以て換入り
時とともなり

五 敵城へ取寄る右鼓

六 右乃時又身方とひまわらるる右鼓

七 守るに右鼓小田原蓮地處に鼓向り時
山懸ゆしりくめけなり

八 形を右鼓小田合乃時強大会戦しに二乃
とともなりなり

九 右乃右鼓右行しりくしりくともなり
てあつたなり

十 由そつら右鼓螺しりくしりくなり
土身方夜働をぬり門きりしりく教乃入ぬ

そり改るまをり君すなりも右鼓と改

ううううひと定る付リ他法をた教撃ウツ
撃を存子あり

以上十一段終

○六 標之事

一七五三或は四二三の勢を能く同

二ひうの員はす是をさうしめりさう

つらりと希く

三たぐる員はさう是をさうしめりさう

たりの成りせく

四物来り員は事一の員はさうはとあ

二の員はさうはと定成る員はさうは

道はかゝるはさう定る是は静るはさう早

をた教と改を改おしうく員はさうは

押あつ四ツ又ツさうは外張りては道員

とつらりて是はさうは由押合戦すは

用ら又は軍は勝るは由定るは標を教

合さるは子さうは合戦はさうは教

と合さるは由の由員は陳の員陳の

かゝる員

○七 鐘乃事

一鐘を陳屋より用る我場へ持入り

さうら

二一青撞聲一々人馬乃食

三二番撞一々或具一々

四由れ撞の多周毎一撞紛々一々

一々一々一々一々一々一々

唐乃作法を是一々

金草

金音有五草音有五退則聽金進則

聽鼓鼓以増氣金以抑怒握其機関

戰不失度

○八旌旗乃事

旌教四の指子旌旗と曰教る

一旌 いたるを信云云及乃のゆをこの内

一々正乃たる正不働一々右の二がを

懸引れ控右の守を靜一々乃守を早ク

圓より由る魂魄一々信云云の大馬を

一上の毫黄久らり

一旗 いたるを動を進む二がなり動一

靜より早をわり但ちやきいさのりる

りあらいたる

三旌 是を備乃る一々剛強のちる

たせ吾をわらひ一人はくろる也

對のさくわらひ而のあわり

四 毫 されど大将世引下知さしつゝのまね
 三 三 ありおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
 二 二 ありおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
 一 一 ありおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり
 ○九 合戦大小政を城攻りし難扱の事

一 大なるありし一は是も動のしつゝ
 二 動、謀二女動、一は祥ありわら早きあり
 一 上は道徳公難多ふさる法辨見らる事
 一 人教はひくくしつゝ時三女用ひ
 一 早きしは早字とくさ動りするも白
 一 地一日乃地あり
 一 資一日の地此大馬ありしと正、動りする

能あり二なりて人教と仕の路より
才二思の字の能と云ひくはかゝる能あり
才三早け字のたもこゝろやくかゝるこゝろ
たもこゝろ

- 一 相馬の能あり 是を信勢の備所領
たもこゝろとやそ 務系常陸守が工まらし
あり御別しはそ家く の能とんを
らるるしと文く 一とらの中し大形とス
一 きよとらるるあり 是と改おの能と
てま貴人白志の又文しはこゝろの
ありとんをこゝろありありと改押なり

先自らの金瓶角の二聲もつひと
一 藝と相びて能一なりてんを
今少孫御と押つひし二なりと改あり
是悟せしと文く ちれありあり

二 守能のち ゆりたりとこゝろ
戦の時は士大納り役おせりありの
大将れとる役あり 三増合戦の時武田
のつとめ路いしとらり山懸三
め遊軍九とらきとら知しとらと馬場
更流并四郎勝頼と典原の能と
けららとと内友修理小若結のゆとら

わらわく合我もくわらうもくわらり
かり

三日月能 刀をせしむるよりと農人
母らどしと能う物とてせ玉成と物
見らどしおわらしと送り足指道徳もか
くしてとありく今く忍らもわらひど
しは四指物成りさころりま立の申し
そとくとも明燈と教しと忍せとく道^スの
事わら又ととらり火ありと忍せ備らど
とらりがどしと
○十也りする所かくの書れ事

一 相番乃能

二 中わらし捨かりなる

三 飛脚かりなる

四 かくり書ら又なる事

信玄全集末書上巻之五終

大正九年三月廿一日

東京府立第一高等女子学校

女子部 英語科

英語科 英文科

英語科 英文科

英語科 英文科

英語科 英文科

英語科 英文科

